

- 問1 1543年、九州の南側に位置する種子島にポルトガル人が漂着した際、日本に初めて伝えられた武器について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2017年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. この武器は高度な技術が必要だったため国内での製造ができず、終始輸入に頼っていた。 | 2. この武器の伝来と同時にフランシスコ・ザビエルによってキリスト教が日本に広められた。 | 3. この武器は弓矢と呼ばれ、従来の騎馬武者による一騎打ちをより重視させるようになった。 | 4. この武器は鉄砲と呼ばれ、その後の戦国時代の戦い方を集団戦へと大きく変化した。 |
|---|--|--|---|
- 問2 戦国大名が「分国法」を制定した主な背景と目的について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2016年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 海外との貿易を独占し、キリスト教の布教を認めることで南蛮文化を取り入れるため。 | 2. 将軍の命令を全国に徹底させ、守護大名の権限を制限することで幕府の権威を取り戻すため。 | 3. 朝廷から与えられた守護としての特権を誇示し、伝統的な荘園領主の権利を保護するため。 | 4. 領内の武士や農民の行動を統制し、領国を一つのまとまった組織として安定させ、他勢力との戦いに備えるため。 |
|--|---|--|--|
- 問3 ルターが始めた宗教改革において、彼はキリスト教徒が信仰の根拠として最も重視すべきものは何であると主張しましたか。 (2018年 福島県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-------------|-------------|-------------|
| 1. 聖書 | 2. 免罪符（贖有状） | 3. ローマ教皇の命令 | 4. 教会が定めた儀式 |
|-------|-------------|-------------|-------------|
- 問4 15世紀末のヨーロッパでは、肉の保存や調味に不可欠な香辛料をイスラム勢力を介さず直接入手することが求められていました。この背景の中、ポルトガルの支援を受け、アフリカ大陸南端の喜望峯を回りインドへ到達する航路を切り開いた人物は誰ですか。 (2018年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|---------|------------|-------------|
| 1. コロンブス | 2. マゼラン | 3. マルコ＝ポーロ | 4. バスコ＝ダ＝ガマ |
|----------|---------|------------|-------------|
- 問5 フランシスコ＝ザビエルによる日本での活動に関する説明として、最も適切なものはどれか。 (2017年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------------------------|---------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|
| 1. 種子島に漂着し、領主の種子島時堯に鉄砲を伝えた。 | 2. 織田信長と会見し、京都での布教と南蛮寺の建設を許された。 | 3. 大名らに勧め、天正遣欧少年使節をローマへ派遣させた。 | 4. 1549年に鹿児島へ上陸し、キリスト教の布教を始めた。 |
|-----------------------------|---------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|
- 問6 鉄砲の伝来がその後の日本の戦い方や社会に与えた影響として、最も適切な説明を選びなさい。 (2014年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 鉄砲の製造が困難であったため、一部の特権階級のみが儀礼用として保持した。 | 2. 武士個人の技術がより重視されるようになり、刀や弓矢による一騎打ちが増加した。 | 3. 集団戦法が主流となり、強力な火力から守るための堅固な城が築かれるようになった。 | 4. 外国との交易が危険視されたため、すぐに鉄砲の使用や製造が全面的に禁止された。 |
|---|---|--|---|
- 問7 戦国大名が「分国法」を定めた目的や、その内容に共通する特徴として最も適切なものはどれですか。 (2023年 静岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--------------------------------------|---|--------------------------------------|
| 1. 家臣同士の私的な争いを禁じ、大名の強力な権限で領国内の秩序を維持すること | 2. 鎌倉幕府が定めた武士の慣習を全国一律に適用し、朝廷の権威を守ること | 3. キリスト教の布教を制限し、特定の寺社を保護して領国内の思想を統一すること | 4. 江戸幕府の許可を得て、大名同士の婚姻を制限し、軍事力を抑え込むこと |
|---|--------------------------------------|---|--------------------------------------|
- 問8 戦国大名の朝倉氏が定めた「城郭の構築に制限を設ける規定」や、伊達氏が定めた「年貢を納めない農民への処罰に関する規定」など、当時の大名が独自に定めた法典が持っていた共通の目的として、最も適切なものはどれか。 (2024年 奈良県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------------------------|--------------------------------|------------------------------------|----------------------------------|
| 1. 領国内の秩序を安定させ、軍事・経済の両面から支配体制を強化すること | 2. すべての裁判を天皇や公家が行うという原則を確立すること | 3. 土地をすべて公有とし、農民に平等に配分して税収を安定させること | 4. 室町幕府の將軍から授かった権限を、領民に広く知らしめること |
|--------------------------------------|--------------------------------|------------------------------------|----------------------------------|
- 問9 16世紀の記録において「長さ二、三尺の筒状の道具で、火を放つと雷のような音がする」と描写された武器が、日本の築城技術に与えた影響として正しいものはどれですか。 (2017年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 鉄砲による火災を防ぐため、城の周囲に広大な水堀を作るのをやめ、空堀が主流となった。 | 2. 鉄砲の射程距離を避けるために、城はすべて人里離れた険しい山頂にのみ築かれるようになった。 | 3. 鉄砲の威力に対抗するため、高い石垣や厚い壁、複雑な堀を備えた城が築かれるようになった。 | 4. 鉄砲の重さに耐えられるよう、城の主要な構造物がすべて巨大な岩石のみで作られるようになった。 |
|--|---|--|--|
- 問10 戦国大名による領国支配の実態について述べた文として、当時の法律の内容や背景から考えて正しいものはどれか。 (2024年 奈良県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 伊達氏の法典では、農民が年貢を納められない場合に備え、納税を免除する権利を認めた。 | 2. 朝倉氏の法典では、代官の配置や城郭の制限を通じて家臣の勢力拡大を抑えようとした。 | 3. これらの法律は、全国の戦国大名が協議によって作成した全国共通のルールであった。 | 4. 分国法においては、武士同士の紛争はすべて室町幕府の裁判所に委ねるよう定めていた。 |
|--|---|--|---|
- 問11 戦国時代において、下の身分の者が上の身分を圧倒する「下剋上」の風潮が広まった背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2022年 熊本県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 幕府が強力な中央集権体制を確立し、地方の武士に直接命令を下すようになったため。 | 2. 農業技術が向上したことで農民が完全に自立し、武士による支配が消滅したため。 | 3. 朝廷が新しい官位制度を導入し、能力に応じた地位をすべての人々に与えたため。 | 4. 応仁の乱によって幕府の支配力が弱まり、各地で実力による領国支配が行われるようになったため。 |
|--|--|--|--|
- 問12 戦国時代の甲斐国（現在の山梨県）を治めた武田氏が定めた「甲州法度之次第」のように、各地の戦国大名が領国支配のために定めた法について、その特徴を説明したものとして適切なものはどれか。 (2021年 京都府公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 朝廷が定めた律令制度を復活させ、中央集権的な国家体制を再構築することを目指した。 | 2. 鎌倉幕府が定めた御成敗式目をそのまま引用し、全国一律の公平な裁判を保証した。 | 3. 家臣同士の私的な争いを禁じる喧嘩両成敗などの規定を設け、大名による裁判権を強化した。 | 4. 全国の公家を統制し、儀式や行事のあり方を細かく規定することで天皇の権限を制限した。 |
|---|---|---|--|
- 問13 会津地方を治めた蘆名氏や伊達氏が活躍していた日本の戦国時代において、世界で同時に起こっていた出来事として最も適切なものはどれですか。 (2018年 福島県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------------------------|-----------------------------|--------------------------|-----------------------------|
| 1. アラビア半島でムハンマドがイスラム教を創始した | 2. ドイツのルターが聖書に基づき教会の腐敗を批判した | 3. アメリカで奴隷制をめぐる南北戦争が勃発した | 4. フランスで市民が自由と平等を求めて革命を起こした |
|----------------------------|-----------------------------|--------------------------|-----------------------------|

答え合わせ・解説

問1	答え 4 この武器は鉄砲と呼ばれ、その後の戦国時代の戦い方を集団戦へと大きく変化させた。	1543年に種子島へ伝来した鉄砲は、それまでの武士個人による一騎打ちから、足軽の集団が鉄砲を一斉に射撃する戦術へと戦い方を一変させました。鉄砲はその後、堺（大阪府）や国友（滋賀県）などで国産化が進み、全国の戦国大名へと普及しました。なお、キリスト教の伝来は1549年であり、鉄砲の伝来とは時期や経緯が異なります。
問2	答え 4 領内の武士や農民の行動を統制し、領国を一つのまとまった組織として安定させ、他勢力との戦いに備えるため。	戦国大名は隣接する他の勢力と常に戦う状況にあり、領国内での内紛は命取りとなりました。そのため、武士たちの勝手な婚姻を禁止したり、農民が年貢を納める義務を明確にしたりすることで、領地全体を強力に統率し、富国強兵を図る狙いがありました。
問3	答え 1 聖書	ルターは、教会の権威や儀式、ローマ教皇の命令よりも、神の言葉が記された「聖書」こそが信仰の唯一のよりどころであると主張しました。彼はラテン語で書かれていた聖書をドイツ語に翻訳し、一般の人々が直接聖書の内容を理解できるように努めました。これは、教会の形式的な教えから脱却しようとする背景から生まれた考え方です。
問4	答え 4 バスコ＝ダ＝ガマ	ポルトガルはアフリカ沿岸を南下する独自のルートを探索していました。1498年にこの人物がインドのカリカットに到達したことで、アジアとの直接貿易が可能になり、ポルトガルに莫大な富をもたらしました。
問5	答え 4 1549年に鹿児島へ上陸し、キリスト教の布教を始めた。	ザビエルは1549年に鹿児島に上陸して布教を開始しました。織田信長と会見して京都での布教を許されたのはルイス＝フロイスらであり、少年使節の派遣を勧めたのはヴァリニャーノです。また、鉄砲を伝えたのは1543年に種子島に漂着したポルトガル人商人であり、宣教師ではありません。
問6	答え 3 集団戦法が主流となり、強力な火力から守るための堅固な城が築かれるようになった。	鉄砲の普及により、それまでの騎馬武者による一騎打ち中心の戦い方から、足軽による集団戦術へと大きく変化しました。織田信長が長篠の戦いで鉄砲隊を活用したことはその代表例です。また、鉄砲や大砲の攻撃に耐えるため、石垣を高く積み上げ、広い堀を持つ巨大な城郭が築かれるようになるなど、軍事・建築の両面に大きな変革をもたらしました。
問7	答え 1 家臣同士の私的な争いを禁じ、大名の強力な権限で領国内の秩序を維持すること	戦国大名は、家臣たちの私的な争いが領国の混乱を招くことを防ぐため、武力による解決を禁じました。多くの分国法では、争った両者を理由に関わらず処罰する「喧嘩両成敗」の原則などが盛り込まれ、大名が絶対的な裁判権を持つことで領国支配を強めようとししました。大名同士の婚姻制限は江戸時代の武家諸法度の内容です。
問8	答え 1 領国内の秩序を安定させ、軍事・経済の両面から支配体制を強化すること	戦国大名は、家臣が勝手に城を築くことを制限して反乱を防止したり、年貢の徴収を徹底して軍事費を確保したりすることで、領国の支配を確実なものにしようとししました。分国法は、戦国時代を勝ち抜くための「富国強兵」を目指した統治の仕組みです。幕府の権威が及ばなくなった時代背景を反映しています。
問9	答え 3 鉄砲の威力に対抗するため、高い石垣や厚い壁、複雑な堀を備えた城が築かれるようになった。	鉄砲の普及は、城のあり方を大きく変えました。それまでの簡素な「山城」から、鉄砲の攻撃に耐える強固な石垣や、敵を迎え撃つための窓（狭間）を持つ天守などを備えた「平城」や「平山城」へと進化しました。これにより、城は軍事拠点としてだけでなく、領主の権威を象徴する政治的中心地としての役割も強めることとなりました。
問10	答え 2 朝倉氏の法典では、代官の配置や城郭の制限を通じて家臣の勢力拡大を抑えようとした。	分国法は各戦国大名が領国の実情に合わせて個別に定めたもので、内容は多岐にわたります。朝倉氏の事例のように、家臣が勝手に拠点を作ることを禁じたり、役人（代官）を適切に配置したりする規定は、大名による中央集権的な支配を強める意図がありました。一方で、伊達氏の事例に見られるように、年貢の未納に対しては厳しい処罰を科すなど、農民に対しても強い統制を行っていました。
問11	答え 4 応仁の乱によって幕府の支配力が弱まり、各地で実力による領国支配が行われるようになったため。	応仁の乱をきっかけに室町幕府の権威が失墜すると、従来の身分秩序や支配体制が崩れました。それまでの守護大名に代わり、実力で領国内を統制し、富国強兵を進める戦国大名が各地に出現したことが、下剋上の象徴的な現象です。
問12	答え 3 家臣同士の私的な争いを禁じる喧嘩両成敗などの規定を設け、大名による裁判権を強化した。	分国法は、戦国大名が家臣団を統制し、領国を安定させることを目的としていました。特に「喧嘩両成敗」の規定は、武士同士が私的な武力で行使していた解決を禁じ、大名の判断に従わせることで領国内の紛争を抑える重要な仕組みでした。
問13	答え 2 ドイツのルターが聖書に基づき教会の腐敗を批判した	日本の戦国時代は主に15世紀後半から16世紀にかけての時期を指します。この時期、世界ではルターによる宗教改革が始まり、キリスト教の世界に大きな変化が起きていました。南北戦争は19世紀、フランス革命は18世紀末、イスラム教の創始は7世紀の出来事であり、日本の戦国時代とは時期が異なります。